

## 【作物】

### 1 早期水稻の管理

- (1) 中干し：6月上旬頃(出穂35～40日前)から、必要茎数(約18～20本)が確保され次第、足跡が軽くつく程度に行います。中干しの目安は約7～10日間で、圃場により土の乾き具合が異なるため、土壌条件に応じて連続または間断での中干しをして下さい。
- (2) 追肥：根の活力を高めるため、出穂40日前頃に、PK30化成を20kg/10a施用して下さい。

### 2 普通期水稻の管理

- (1) 品質対策  
登熟期(特に9月)に平均気温26～27℃以上の高温に遭遇すると、腹白粒・乳白粒など白濁した玄米(白未熟粒)が発生して品質が低下します。対策として、田植時期は6月中旬以降として、無理な早植は避け、株間20cm以上の田植えとして日当たり・風通しを良くして下さい。また、にこまるについては、田植えは6月中旬が適期で、栽植密度は疎植にした場合は青未熟の発生割合が多くなりますので50株/坪が基本です。なお、里芋・山の芋など野菜作付後では基肥量を減らして下さい。
- (2) 病害虫防除  
「フルターボ箱粒剤」を1箱当たり50g施用(移植当日)して下さい。いもち病、紋枯病、イネミズゾウムシ、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ、イネツトムシ、ウンカ類、コブノメイガの総合防除剤です。
- (3) 水田雑草防除(除草剤散布)

農薬名	使用時期	使用量/10a	使用回数
コメットジャンボ	移植後5日～ルベ2.5葉期	30g/㎡×10個	1回
イッポンDフロアブル	移植時・移植直後～ルベ2.5葉期	500ml	1回
シウスターボ1キ粒剤	移植後5日～ルベ2.5葉期	1kg	1回
パワーカ71キ粒剤51	移植時・移植直後～ルベ2.5葉期	1kg	1回
クサトツタ粒剤	移植直後～ルベ2葉期	3kg	1回

#### 【使用上の注意】

- ア 高低差がないよう均平に耕起・代かきし、丁寧に畔塗りして漏水防止に努めましょう。
- イ 除草剤散布後3～4日間はそのまま湛水を保ち、田面を露出させないようにしましょう。
- ウ 除草剤散布後7日間は落水、かけ流しはしないようにして下さい(田面が露出し、入水が必要な場合はゆるやかに入水しましょう)。
- エ 藻類の発生が多い場合は、薬剤の拡散が妨げられるので、ジャンボ・フロアブル剤は注意して下さい。

<真鍋>

## 【野菜】

### 1 里芋

- 6月は梅雨時期を迎えますが、今年は天候不良により植付作業が遅れたため平年に比べ生育が遅れることが予想されます。生育状況を観察し適期に作業をして下さい。
- (1) 全期マルチ栽培  
ア 土入れ  
小芋・孫芋の肥大促進とタケノコ芋の発生を少なくするため、孫芋着生時期(地上部が本葉4～5枚)までに、管理機により土入れ(マルチ上に土を乗せる)を実施して下さい。土壌が乾きすぎているとマルチの上に乗った土が滑り落ち、うまく土入れできない場合があるので、多少の湿りを持った状態で作業をして下さい。
- イ 害虫防除  
ハダニの発生時は、マイトコーネフロアブル1,000倍またはサンマイトフロアブル1,000倍で防除して下さい。
- (2) マルチ栽培  
ア おおなか  
孫芋着生時期に、おおなか作業を行って下さい。目安は、マルチ栽培では5月下旬～6月中旬頃、露地栽培では6月上旬～下旬です。
- イ 追肥  
おおなか時に、おおなか一発体系は里芋用SRコートを120kg/10a、化成体系はMB粒状固形を80kg/10a施用します。
- ウ 害虫対策  
コガネムシ類幼虫対策として、おおなか時にオンコル粒剤5(9kg/10a)を必ず施用して下さい。  
ハダニ発生時には薬剤散布(全期マルチと同じ)して下さい。

### 2 山の芋

- 芽かぎ、ツルなおし  
2本以上萌芽している株は、早いうちに1本にします。芽かぎをする際は芽の根元から丁寧に取り除いて下さい。  
また、茎葉が均一に繁茂するように、ツル直しを実施していきます。  
<越智>

## 【果樹】

### 1 温州みかんの摘果

- 樹の状態に応じた結実管理で幼果の結実・充実と樹勢維持を図り、隔年結果の是正に努めて下さい。
- (1) 着果過多樹  
早期の摘果で夏芽の発生を促し、結果母枝を確保して下さい。  
ア 速やかに夏肥施用(窒素成分量5kg/10a程度)  
イ 早期(一次落果終了後の6月下旬頃)に樹冠上部1/3を全摘果  
ウ 発生した夏芽はミカンハモグリガの防除

### (2) 着果不足樹

養分競合を防ぎ果実に光を当てるため、着果部位周辺の強い新梢の芽かきやかぶさり枝を除去します。あら摘果を控えるか見合わせて、主に仕上げ摘果で結果量を調整して下さい。

### 2 中晩柑類の摘果

伊予柑など中晩柑類の大玉果実生産には、肥大が旺盛な生育初期の摘果が重要で、あら摘果は、肥大促進、樹勢維持につながります。その効果を十分に得るため、少雨状態が続けば灌水をして下さい。  
一次落果終了後から早期に始めて60葉に1果残す程度まで摘果し、葉が5～7枚の有葉果主体に結実させます。不知火は、7月上旬までに全摘果量の8割程度を目標に摘果します。

### 3 中晩柑類の夏肥施用

新梢の充実、幼果の肥大促進と樹勢維持のため、6月下旬に夏肥を施用します。(伊予柑は、成分量で窒素9kg、リン酸7kg、加里8kg/10a)

### 4 病害虫防除

梅雨期は特に、かいよう病と黒点病の感染に注意し、罹病枝葉除去と薬剤防除(下記)を徹底して下さい。また、カイガラムシ、カミキリムシ、ハダニ・サビダニも防除して下さい。  
・かいよう病：6月下旬。ICボルドー66D80倍。  
・黒点病：落果後の第1回散布後、200～250mmの累積降雨または30日以内に2回目。ジマンダイセン水和剤600倍。

<大西>

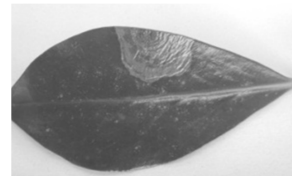
## 【花き・花木】

### 1 アネモネ、ラナンキュラスの堀り上げ

堀り上げ適期は摘花のピークから40～50日後、葉が黄化し始めた頃です。若堀りは発芽率低下の要因となります。堀り上げ後は、日陰で十分乾燥させた後、手でもみ込み、根と土を除きます。また、乾燥機を使用する場合は、28～30℃で約40時間を基準とし、必ず一日に数回混ぜるようにします。

### 2 シキミ

- (1) 輪紋葉枯病  
病斑は1～2cmで赤褐色の同心円状の輪紋を生じ、その後病斑上に灰白色のキノコ状～球形の小型の菌体を形成し、ひどい罹病樹は落葉します。
- (2) 黒しみ斑点病  
葉に黒いしみ状の斑点が観察されます。新葉には、はじめ針で突いたような褐点がみられ、日にかざすと周囲が薄く葉緑素が抜けたような症状が見られます。  
主に降雨時期(5～7月)にかけて胞子の飛散量が多く、感染がおこると考えられます。
- (3) シキミグンバイムシ  
葉裏に寄生して吸汁加害し、葉の表面が白いカスリ状になります。葉裏に糞や脱皮殻が付着して概観が悪くなります。4月～10月まで増殖を繰り返します。
- (4) フシダニ  
体長が0.15～0.2mm程度で、寄生し吸汁すると葉にまだら色のモザイク症状・紋々症状が発生し、黄化したり奇形葉になります。
- (5) 防除薬剤  
定期防除として6月下旬～7月上旬に、殺菌剤のベンレート水和剤2,000倍、殺虫剤のオルトラン水和剤1,000倍、ダニ剤のピラニカEW1,000倍を混用散布して下さい。  
茶園や他の作物が隣接して栽培されている場合や、ミツバチの巣箱の近くでは農薬の飛散に十分注意して下さい。



輪紋斑点病(輪紋症状)



黒しみ斑点病(表面)

<日野>

## 【畜産】

### 梅雨時期の飼養管理

この時期は、気温・湿度が高く不快な日が続くため、少しでも家畜に快適となるよう飼養管理や環境整備に心掛けましょう。

- 1 梅雨期は、給与した飼料が短時間のうちに変敗するため、サイレージ等の多汁質飼料は常に新鮮なものを与え、1回当たりの給与量も短時間で採食可能な量にするほか、常に清潔で冷たい水が飲めるよう給水施設の点検や清掃に心がけて下さい。
- 2 湿度が高くなると床面の乾燥状態が悪くなります。除糞をこまめに行い、新しい敷料を入れるとともに、送風機を利用して床面を乾燥させましょう。
- 3 害虫(特にハエ)の発生時期となることから、畜舎及び周辺への薬剤散布、除草、飼槽の清掃、糞尿処理等に努め、ハエの発生源を作らないよう注意して下さい。
- 4 梅雨期は、圃場への堆肥還元が難しく堆肥が滞留しがちです。堆肥を屋外で保管する場合はシートで覆い雨水等を流入させないなど、家畜排せつ物法を遵守した管理を心がけて下さい。

<中谷>